

2023 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	M		
所属	理工学府 数物・電子情報系理工学専攻	学年	1年
派遣先大学	アンナ大学		
期間	2023/12/07~202/12/17		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

正しく話すことを意識するよりも、たくさん言葉にして伝えようとするのが何よりも重要だった。英語を話すことに苦手意識や恥じらいがあったが、研修を通して、積極的にコミュニケーションをとろうと思えるようになった。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

寺院には裸足入ること、手で食べること、停電が多いこと、常にクラクションが飛び交っていること…など、日本とは全く違った生活が体験できた。現地の「当たり前」を実際に目にして体験できることは、とても貴重で良い教訓になった。インドで出会った方全員がとても親切で、慣れない生活環境に負けずプログラムを楽しむことができた。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

私にとって今回のプログラムが初めての海外渡航でした。慣れないことだらけでネガティブになってしまったり、体調を壊したりもしましたが、参加して良かったと思っています。派遣先の大学でも豊富なプランを用意していただき、充実した日々を送ることができました。貴重な機会なので、参加をお勧めします。



2023 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	宮越 康多		
所属	理工学部 化学・生命系学科 化学応用 EP	学年	3 年
派遣先大学	Anna University		
期間	2023 年 12 月 7 日～2023 年 12 月 17 日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

アンナ大学では、施設見学や研究室訪問、ディスカッションなどを行った。様々な分野の教授や学生と交流する機会があり、最先端の研究に触れることができた。語学面では、最初は苦労したが、日が経つにつれてネイティブが使う表現を覚えて実際に使うことで、円滑なコミュニケーションをとることができた。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

ほとんどのインド人は、カレーやビリヤニなどを、右手だけを用いて器用に食べる。初日に手食を教えてもらったが、見た目以上に難しい。しかし、慣れると意外と便利である。また、ヒन्दゥー教寺院に行く際は、靴を脱ぐ必要がある。また、スマートフォンやカメラなどを持ち込むことが禁止されているところもある。素直に従ったほうがいい。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

日本とインドの文化的な差はとても大きい。それゆえ、学ぶことは多く良い経験になる。現地の人々はとても親切で、楽しく過ごせることができる。衛生面や食事面などで不安になることはあると思うが、勇気を出してインド留学にチャレンジしてほしい。一生の思い出になることはもちろん、将来に役立つこと間違いなし。

